

Press Release

報道用資料

2007年10月4日

自動車先進技術の中で消費者の支持を集めるのは、 安全装備ではエアバッグの新技术、環境・燃費技術ではハイブリッドエンジン

2007年日本自動車先進技術調査

CS（顧客満足度）に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社 J.D. パワー アジア・パシフィック（本社：東京都港区、略称：J.D. パワー、代表取締役会長兼社長：J.D. パワー 4 世）は、2007 年日本自動車先進技術調査の結果を発表した。

当調査は自動車先進技術に対する消費者の認知度、興味度および購入意向について調査するもので、46 にのぼる自動車先進技術・装備を対象としている。5 回目となる今年の調査は、過去 5 年以内に新車を購入した一般の自動車（軽自動車を含む）ユーザーで購入決定に関与し購入車を主に運転している人を対象としている。7 月上旬にインターネット調査を実施し 5,307 人から回答を得た。

なお、同様の調査は米国でも実施されているが、日本における調査ではハイブリッドエンジンやクリーン・ディーゼル・エンジンなどの環境関連技術・装備に関する内容を充実させている（米国では別調査として実施）。またテレマティクス用の車載装備であるデータ通信モジュールなど、日本市場固有の事情や特徴にあわせた独自の調査対象も盛り込んでいる。

多段式エアバッグ、ニーエアバッグ、むち打ちダメージ軽減シート、 認知度はまだ低い、高い購入・装備意向を獲得

調査では各先進技術・装備について説明した上で、それぞれをどの程度知っているか（認知度）を聞き、その後価格を提示せずにどの程度興味があるか（興味度）を聞く。さらに価格（低価格、中価格、高価格の 3 段階）を提示し購入・装備の意向があるかを聞いている。

調査対象の 46 の先進技術・装備のうち、価格提示前の興味度と価格提示後の購入意向のそれぞれにおいて全体平均を上回ったのは 14 の技術・装備だった（3 ページ図参照）。これらの中で、興味度と購入意向共に特に高かったのは次の 8 つだった。

フロントサイドエアバッグ、リアサイドエアバッグ、カーテンエアバッグ、多段式エアバッグ、ディスチャージ（HID）ヘッドライト、ハイブリッドエンジン、キーレスエントリーシステム、データ通信モジュール（料金体系を「年会費：無料、音声通話料 / データ通信費：使用量に応じた従量制課金」に設定時）

これらの技術・装備によって実現される安全性や環境・燃費経済性、利便性や安心感などにユーザーが高い関心を寄せていることがわかった。

また、これら 8 つの技術・装備の中で多段式エアバッグのみ、認知度が全体平均を下回るものの非常に高い興味と購入・装備意向が示されるという結果となった。このことから多段式エアバッグには潜在的な可能性があることがわかる。

46 の技術・装備の中で他に着目できる結果を得たのはニーエアバッグとむち打ちダメージ軽減シートである。これらはまだ一般にはあまり知られていない技術・装備で、認知率は 3 割前後にとどまっている。しかし多段式エアバッグ同様、高い購入・装備意向が示され購入意向のランキングのトップ 10 に入った。このことは安全関連技術・装備に対するユーザーの強いニーズを示している。

ハイブリッドエンジンは全体に高い支持、クリーン・ディーゼル・エンジンは一部で堅実な支持

環境・燃費経済性関連の技術・装備については、次の6つに関する認知、興味、購入意向を調べた。

ハイブリッドエンジン、クリーン・ディーゼル・エンジン
ツイン・チャージャー付小排気量エンジン、気筒休止機構付エンジン（可変シリンダーシステム）
クラッチレス・マニュアル・トランスミッション（2ペダルM/T）
多段オートマチック・トランスミッション

その結果、ハイブリッドエンジンを除く5つに関しては興味と購入意向において46技術・装備の平均を下回っており、環境・燃費経済性関連の技術・装備群におけるハイブリッドエンジンへの突出した支持が目立った。

これらの6技術・装備に関する購入意向については、他の先進技術・装備とは別に9段階の価格提示を行い、装備の意向が価格によってどのように変化するかを見た。どの技術・装備でも提示価格が上がると装備意向が下がる傾向にあるが、クリーン・ディーゼル・エンジンは価格上昇に伴う装備意向の下落率がハイブリッドエンジンに次いで低いことがわかった。クリーン・ディーゼル・エンジンでは平均的には興味度や装備意向は高くないものの、支持層には比較的堅実な需要がある可能性がうかがえる。

燃費性能に対する満足度は相対的に低く、改善の余地有り

燃費に対する市場要請の高まりを受け、今年の調査では燃費性能に対するユーザー満足度を調べた。また燃費性能とトレードオフの関係になりがちなエンジン性能や車体性能などの車両の基本性能に対する満足度も調べている。

その結果、基本性能を総合的に見て満足している人（「大変満足」、「満足」、「まあ満足」と回答した人）の割合は70%以上と高かったが、燃費性能についてはその割合は50%強にとどまった。一方、基本性能を総合的に見て不満のある人（「非常に不満」、「不満」、「やや不満」）の割合は10%を下回るが、燃費性能では30%近くにのぼることが明らかになった。これらのことから、現状では燃費性能に関する満足度が相対的に低く改善の余地がまだ残されていることがわかる。

* J.D. パワーが結果を発表する調査はすべて J.D. パワーが第三者機関として自主企画により実施したものです。

<株式会社 J.D. パワー アジア・パシフィックについて>

当社は米国 J.D. パワー・アンド・アソシエイツの日本を含むアジア地域でのビジネスの拠点として 1990 年に設立された。自動車業界を始めコンピューター、通信関連、OA 機器、サービス産業、金融など様々な業界において顧客満足に関する調査やコンサルティングを実施している。ISO9001 およびプライバシーマーク取得。会社概要や提供サービスなどの詳細は当社ウェブサイト www.jdpower.co.jp まで。

<J.D. パワー・アンド・アソシエイツについて>

ザ・マグロウヒル・カンパニーズの一部門である J.D. パワー・アンド・アソシエイツ（本社：米国カリフォルニア州ウェストレイク・ビレッジ）は、マーケティング・リサーチ、生産・販売予測、コンサルティング、教育・トレーニングおよび顧客満足度調査を実施している国際的な情報サービス企業である。数百万人の消費者からの回答をもとに品質や顧客満足度に関する調査を毎年行なっている。ISO9001 取得。

<ザ・マグロウヒル・カンパニーズについて>

1888 年に設立されたザ・マグロウヒル・カンパニーズ（NYSE: MHP）は、スタンダード&ブアーズ、マグロウヒル・エデュケーション、ビジネスウィーク、J.D. パワー・アンド・アソシエイツなどを通じて金融サービス、教育、ビジネスに関する情報を提供している国際的な情報サービス企業である。世界 40 カ国に 280 カ所以上の拠点を有し、2006 年の売上高は 63 億ドルにのぼる。詳細はウェブサイト www.mcgraw-hill.com まで。

<当調査に関するお問合わせ先>

(株) J.D. パワー アジア・パシフィック

コーポレート・コミュニケーション・グループ 川野、杉崎

住所： 東京都港区虎ノ門 5-1-5 虎ノ門 45MT ビル（〒105-0001）

電話： 03-4550-8090、FAX： 03-4550-8151、e-mail： cc-group@jdpower.co.jp

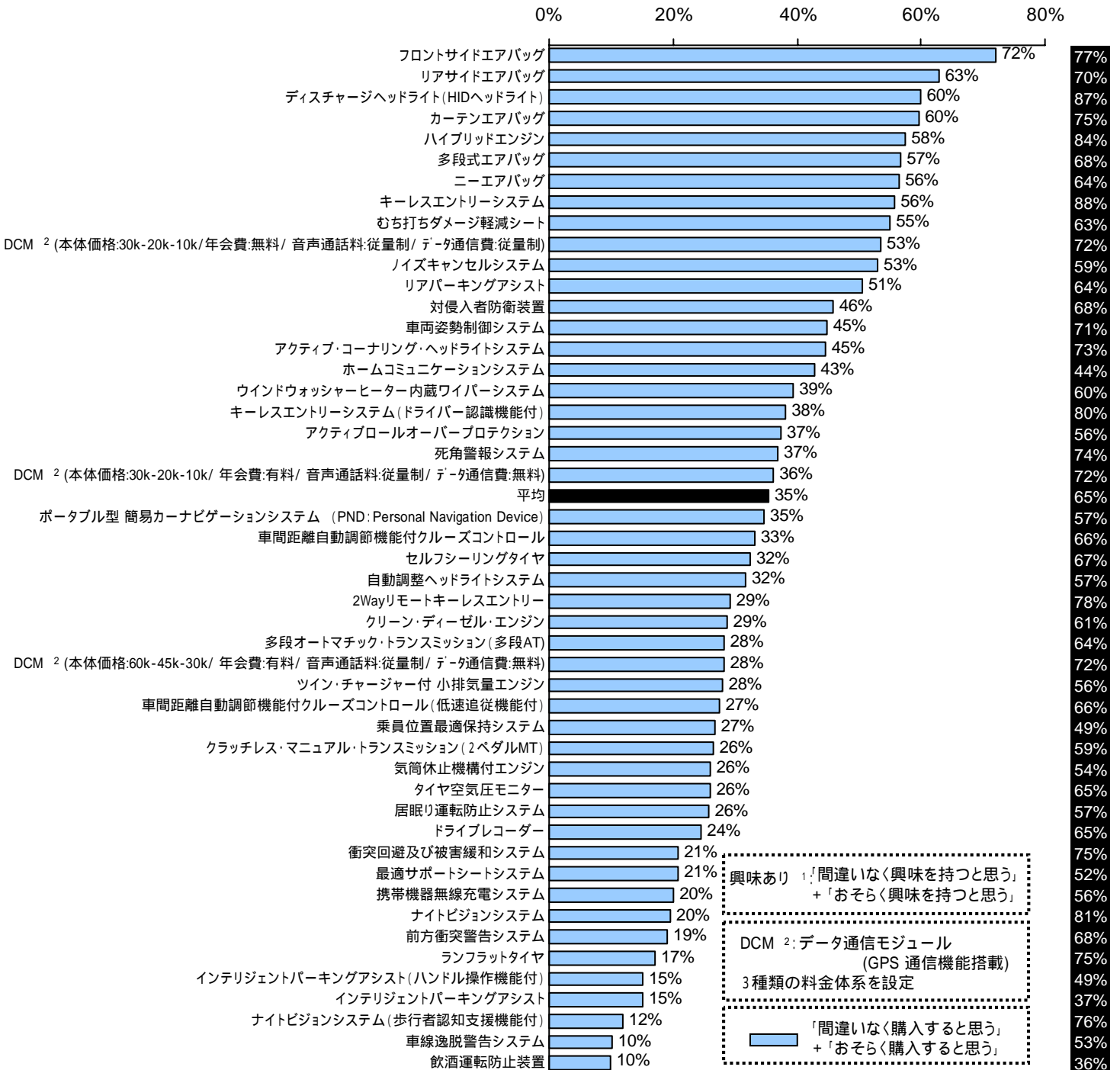
<ご注意>

本紙は報道用資料です。(株) J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く本資料に掲載されている情報および結果を広告または販促活動に転用することを禁止します。

J.D. パワー アジア・パシフィック 2007年日本自動車先進技術調査SM

購入意向 (複数価格提示結果の平均)

興味あり¹
(価格提示前)



出典: J.D. パワー アジア・パシフィック 2007年日本自動車先進技術調査SM

本紙は報道用資料です。J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。

報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、調査レポート発行者および出典(J.D. パワー アジア・パシフィック 2007年日本自動車先進技術調査SM)を明記してください。